

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフリーフ支援教室		
○保護者評価実施期間	R8年 6月 1日 ～ R8年 6月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	R8年 6月 1日 ～ R8年 6月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 7月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）を活用して、自発的なコミュニケーションを育てている。	・ 意思決定支援としてPECSを重要視し家庭と連携して取り組んでいる。	・ 専門的支援を実施し個別集中的にPECSの習得を目指す。 ・ 専門的支援実施加算を増やしていく。
2	・ 個別の視覚的自立スケジュールを用いた見通しを立てる視覚的支援。	・ スケジュールに選択肢を設け利用者自身の意思決定の機会を設けている。設定されたスケジュール通りに活動するだけでなく予定変更にも対応できるようにスケジュールは常にランダムに設定している。	・ スケジュールに対し拒否があれば絵カードにNO表示をし次の活動に移ってもらう等、拒否を表出する練習も併せて行う。
3	・ 保護者からの療育に関する悩みや質問に助言が出来る。	・ LINEや連絡帳アプリを活用し、質問に対して迅速に対応する事が出来ている。	・ 子育てサポート加算・家族支援加算・関係機関連携加算を活用して家族のサポートを充実させる。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ 集団プログラムの実施がむずかしい。	・ 長期休暇等に集団プログラムを準備しているが、個々の活動（自発的な取り組み）を重要視しており、また感覚過敏等で参加が難しい利用者への配慮が必要。集団プログラムへの参加は一部の利用者で行う事は出来ている。	・ 集団プログラムに参加できる利用者に関しては、個人のスケジュールに組み込み参加の機会を設けている。集団参加が苦手な利用者に関しては、個人のスケジュールにスタッフと1対1できるアナログゲームを設定する事で少しずつ参加を促している。
2			
3			